

カフェイン併用化学療法について患者が知りたい情報

—初回治療のオリエンテーションにおける患者の評価—

西病棟7階 ○建部茜 藪内久美子 中町あすか
西あずさ 加藤美香 徳田説子

キーワード：カフェイン併用化学療法

副作用 オリエンテーション

はじめに

当科ではカフェイン併用化学療法を行っており、強い悪心・嘔吐、イライラ感、心悸亢進、不眠等の多様な副作用が見られる。

初回治療のオリエンテーションでは受け持ち看護師が患者の特徴を踏まえた上である程度統一した内容（副作用・安静・排泄方法・食事等）で行っている。また、患者たちが集まっている光景を見かけることが多く、これは励ましあったり慰めあったりすることやオリエンテーション以外に知りたいことがあり、そのための情報交換を行っていることが推測された。

I. 目的

化学療法について患者が知りたい情報を明らかにすることで、患者の希望に沿ったより良いオリエンテーションにつなげたいと考えた。

II. 研究方法

1. 研究期間 平成18年5月～10月
2. 対象 カフェイン併用化学療法を経験した患者（男性4名・女性1名・平均年齢29.4±14.5歳）
3. 方法
 - 1) 先行研究を基に調査用紙を作成し、治療中の症状・知りたい情報を調査した。
 - 2) 上記の結果を用いて、研究者2名により半構成的面接を行った。
 - 3) 調査用紙・面接によって得られた情報から知りたい情報の内容について検討した。
 - 4) 知りたい情報から、患者の希望に沿った化学療法のオリエンテーションを検討した。

4. 倫理的配慮

研究承諾書を作成し、対象患者に同意を得た。発表に際しては個人が特定されないよう配慮した。

III. 結果

5名に調査用紙による調査を行い、その後面接を行った。面接時間の平均は21.8分であった（表1、2参照）。

1. 治療に関して知りたい情報

「食欲がなくなる」「体がだるくなる」「下痢または便秘になる」「髪の毛が抜ける」は全員に症状があった。事前に医師または看護師から説明を受けた項目は「食欲がなくなる」が4名、「体がだるくなる」が3名、「下痢または便秘になる」が2名、「髪の毛が抜ける」が5名であった。より詳しく知りたかった項目は「下痢または便秘になる」「髪の毛が抜ける」がそれぞれ1名であった。「イライラ」があった患者は4名、事前に説明を受けた患者は4名、より詳しく知りたかった患者は2名であった。その理由は「イライラするとどうなるのか具体的に教えてほしい」「継続して受けなければいけない治療だから」「吐き気・嘔吐」があった患者は4名、事前に説明を受けた患者は5名、より詳しく知りたかった患者は2名であった。その理由は「副作用がいつ頃現れるのか知りたかった」であった。

「治療効果」「薬剤について」「点滴の時間」は事前に説明を受けた患者はそれぞれ3名、より詳しく知りたかった患者はそれぞれ2名であった。また、「治療期間」は事前に説明を受けた患者は2名、より詳しく知りたかった患者は2名であった。その理由は「薬の名前だけでは効き目は分からない。特に抗癌剤の治療は一生が

かかっている」「点滴がはずれるまでの期間を教
えてほしかった」であった。

また、全員が医師や看護師以外に他患やその
家族から情報収集をしており、副作用等につい
ていつ頃どのような症状が出るのか具体的に聞
いていた。その理由は「聞きたい時に具体的に
教えてもらえる」「経験しないと分からないから
心構えができる」であった。

2. 知りたい情報と不安の関連性

治療前に受けた説明により3名が副作用に関
して不安を感じていた。しかし「動注は出血や
安静面で説明を聞いて不安になったが、聞いて
おいて良かった」等と事前に説明を聞いて良か
ったという意見が3名ともに聞かれた。不安に
ならなかった者は2名で、その理由は「治すた
めに入院したから任すしかない」であった。

IV. 考察

患者は下痢・便秘・脱毛・イライラ・吐き気・
嘔吐についてより詳しく知りたいと答えた。そ
れらの項目については事前に医師または看護師
から説明を受けていたが、他患やその家族から
情報収集をしている。それは具体的な副作用の
出現時期・程度について詳しく知りたいと考
えているからである。患者同士の情報交換は未
知の治療に際し、心もとない自己を確認し同じ
疾患の患者同士が寄り添い言葉を交わす中で、
生き方のモデルを見出したり、希望を育む¹⁾と遠
藤らは述べている。副作用の出現時期・程度に
は患者によって個人差があるため、医師または
看護師からは具体的には説明されていないこと
が示唆される。そのため同じ治療を経験した
患者及びその家族から話を聞くことで、未知の
治療に対しての心構えになっていると考えら
れる。医師または看護師から副作用の出現時
期・程度について具体的にオリエンテーション
する必要があると考えられる。しかし、副作用
には個人差があるため、副作用の出現時期・
程度について再度検討しオリエンテーション
内容が統一されることが重要である。

患者は治療前に医師から使用する薬剤の種
類

等説明されている。しかし、治療効果・薬剤
について・点滴の時間・治療期間については
事前に説明を受けながらもより詳しく知りたい
と答えた患者の割合が高かった。そのことから
、薬剤や治療について患者がより多くの情
報を求めていることが分かる。また、点滴の
投与時間は化学療法のプロトコール上は共通
であるが、その後の補整の点滴は個々の患
者の状態によって異なる。治療前のオリ
エンテーションだけではなく、実際の治療
期間中にも、現在何が投与されているか等
の説明が必要であることが示唆された。

患者は治療について数多くのことを初めて
聞くため、一度で記憶にとどめることは不
可能である²⁾と牧野らは述べている。具
体的な副作用の出現時期・程度について、
また、薬剤や治療について、何度も見直
せるものを患者に提供することの必要性が
示唆される。

医師または看護師からの事前の説明により
患者は不安を感じながらも、知識をもつこと
は治療を受ける上で安心につながったと考
えられる。患者は未知の治療に対して情報
を求めており、情報を得ることで不安にな
るが治療を受ける上で心構えとなってい
ることが考えられる。これらから、今回
明らかになった患者がより詳しく知りたい
項目について再度検討し情報提供して
いく必要がある。

今回の研究では、対象が5名と少なく比
較が十分でなかった。個々によって抗癌
剤や治療回数に相違があるため、知り
たい情報について変化が生じてくると推
測された。また、看護師が面接を行っ
たため患者が率直な意見を述べにく
いとも推測され、これらがこの研究の
限界と言える。

V. 結論

1. より詳しく知りたかったのは下痢・便秘・
脱毛・イライラ・吐き気・嘔吐について
であった。
2. 薬剤や治療については事前に説明を
受けていても、より詳しく知りた
かったと感じて

いる。

3. 副作用等の具体的な症状について対象全員が患者同士で情報交換をしていた。
4. 事前に説明を聞かないほうが良かったと答えた者はいなかった。

<引用文献>

- 1) 遠藤恵美子：卵巣癌患者の化学療法克服過程，看護実践の化学，18 (2)，p 86-96，1993.
- 2) 牧野なお子：初回化学療法を受ける患者へのオリエンテーションとその効果—個別的な時間と場所を配慮した働きかけを導入して—，日本看護学会論文集 第33回 成人看護Ⅱ，p 327-329，2002.

<参考文献>

- 1) 大都葉子：がん化学療法オリエンテーション用紙の評価と課題—患者の求める情報と情報源の実態—，日本看護学会論文集 第36回 成人看護Ⅱ，p 196-198，2005.
- 2) 石橋里美：悪性軟部腫瘍患者が看護師に求める説明—化学療法，切断手術，放射線治療を行った1事例を通して—，広島県立病院医誌，36 (1)，p 61-66，2004.
- 3) 保坂ルミ：真実を伝えるコミュニケーションのあり方～がん告知から化学療法の過程における患者と医療者との認識のずれを振り返る～，がん看護，10 (5)，p 428-430，2005.
- 4) 島村とよみ：看護実践に対する患者と看護師評価のズレ，日本看護学会論文集 第33回 看護管理，p 94-96，2002.
- 5) 中町あすか：カフエイン併用化学療法による苦痛への看護介入の検討，東海北陸地区看護研究学会誌，p 170-171，2005.

表1 治療中の症状について (n = 5)

	症状があった患者	事前に説明を受けた患者	より詳しく知りたかった患者
食欲がなくなる	5	4	0
体がだるくなる	5	3	0
下痢または便秘	5	2	1
脱毛	5	5	1
イライラ	4	4	1
吐気・嘔吐	4	5	2
治療効果		3	2
薬剤について		3	2
点滴時間		3	2
治療期間		2	2

表2 患者が知りたい情報とその理由

	患者A	患者B	患者C	患者D	患者E
①より詳しく知りたかった項目 なぜ知りたかったか	<p>治療効果・薬剤について・治療期間・点滴の時間</p> <p>・薬の名前だけでは効き目は分からない</p> <p>・特に抗癌剤の治療は一生がかかっている</p> <p>・点滴がどれくらいでなくなるか教えてほしい</p>	<p>イライラ・不眠・下痢または便秘になる・腹痛・耳鳴り・白血球や血小板の減少・しびれ・薬剤について</p> <p>・イライラするとどうなるのか具体的に教えてほしい</p> <p>・治療後少し便秘になった</p>	<p>なし</p> <p>・説明を受けた範囲内のことで大丈夫だった</p> <p>・前医の治療よりも吐き気等がひどいかもしいと聞いていた</p>	<p>吐き気・イライラ</p> <p>・継続して受けなければいけない治療だから</p> <p>・吐き気・イライラが辛い</p>	<p>吐き気・脱毛・治療効果・治療期間・点滴の時間</p> <p>・ドラマ等で治療に対するイメージがあり実際どうなのか知りたかった</p> <p>・高カロリーやカフェインも含めて、点滴がはずれるまでの期間を知っていたら頑張れる</p>
②①以外に知りたかったこと	<p>・知識がないので、何が知りたいか分からない</p>	<p>・ヘモグロビンの低下</p> <p>・高音が聞こえなくなること</p> <p>・体重減少、食べても太らない</p>	<p>なし</p>	<p>なし</p>	<p>・患者さん同士で情報提供していたので、そんなに分からないことはなかった</p>
③事前の説明で不安になったことはあるか？ なぜ不安になったか？	<p>・治すために入院したから、不安になったこともない</p>	<p>・動注は説明を聞いて怖くなったが、聞いておいて良かった</p>	<p>なし</p>	<p>・動注のことは聞いておいた方がよい</p> <p>・動注は動いたら血が出ると聞いて不安になった</p>	<p>・副作用があることは分かっていたけど、改めて聞くとな不安になったが、聞いたほうが良かった</p> <p>・腎不全で透析と聞いた時は結構不安になった</p>
④なぜ医師や看護師以外から情報収集したのか？	<p>・知りたいときにすぐ知ることができる</p> <p>・経験者しか分からないことを教えてくれる</p>	<p>・治療についてささいなことを話すストレス解消になる</p> <p>・動注は恐ろしいと他患から聞いて、動注は恐ろしいんだなと思った</p>	<p>・具体的に実際どんな感じの副作用か分かる</p> <p>・話していると他患に伝えたいことが出てくる</p> <p>・治療は結構きつくて個室じゃないと無理と聞いたから、治療中は個室にした</p>	<p>・『こんな人もあったから苦しいよ』と他患から聞いた</p> <p>・珍しい病気だから、自分の病気をインターネットで調べて、体験談を読んだ</p> <p>・自分が治療止めたなら、自分より年齢の小さい子も治療止めてしまうと思って、治療を続けていた</p>	<p>・吐き気の出現時期、準備品、何日目が最もつらいか、脱毛時期、等具体的に情報交換した</p> <p>・結局やってみないと分からないことだし、心構えなど聞いた</p> <p>・治療前に話しをすると少し緊張がほぐれる</p> <p>・治療後も話しをすることで緊張がほぐれる</p>